

排出削減実績報告書

排出削減事業の名称：

木質バイオマスボイラの新設プロジェクト

排出削減事業者名：山梨市
(地域交流センター)

排出削減事業共同実施者名：株式会社FTカーボン

その他関連事業者名：

1 排出削減事業者の情報

排出削減事業者	
会社名	山梨市
排出削減事業を実施する事業所	
事業所名	山梨市地域交流センター
住所	山梨市上神内川1229-1
排出削減事業共同実施者（国内クレジット保有予定者）	
排出削減事業共同実施者名	株式会社F Tカーボン

2 排出削減活動の概要

2.1 排出削減事業の名称

木質バイオマスボイラの新設プロジェクト

2.2 排出削減事業の目的

木質バイオマスボイラ 1 台を新設する。木質バイオマスを利用することによって、化石燃料を利用する場合に比べて CO2 排出量を削減する。

2.3 温室効果ガス排出量の削減方法

木質バイオマスはカーボンニュートラルが適用され、CO2 を実質的に排出しないものとみなされるため、新設ボイラの燃料として灯油を利用する場合に比べて、CO2 排出量を大幅に削減する。

2.4 国内クレジット認証要件の確認

排出削減量は承認排出削減計画に従って当該計画を実施した結果生じたものか	<input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ
排出削減量は承認排出削減方法論及び承認排出削減事業計画に従って算定されているか	<input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ

2.5 承認排出削減事業計画からの変更項目

排出削減事業共同実施者を丸紅株式会社から株式会社F Tカーボンに変更。

3 排出削減活動期間

3.1 プロジェクト開始日

2009年12月1日

3.2 モニタリング対象期間

(本報告における実績報告期間)

2012年12月1日 ～2013年3月31日

4 温室効果ガス排出削減量

4.1 採用した排出削減方法論の情報

方法論番号	方法論名称
001-A	ボイラーの新設

4.2 活動量

4.2.1 活動量・原単位

活動量・原単位は採用しない。

4.2.2 活動量の採用根拠

活動量は採用しない。

4.3 事業の範囲（バウンダリー）

バイオマスボイラ及び温水焚き吸収冷温水器から冷温水の供給を受ける設備

5 モニタリング対象指標

項目	定義	単位	実績値	モニタリング方法・ 根拠資料	(モニタリング方法に変更あ る場合、) 変更理由
$F_{\text{fuel,PJ}}$	木質バイオマス使用量	t	27.5	ペレット供給会社の請求書	変更なし
$WCF_{\text{wood,PJ}}$	木質バイオマスの含水率	%	7.00 (湿量基準)	ペレット供給会社の提出データ	変更なし
$HV_{\text{fuel,PJ}}$	木質バイオマスの単位発 熱量	GJ/t	20.5 (ドライベース、 高位発熱量)	ペレット供給会社の提出データ	変更なし
ε_{PJ}	事業実施後ボイラ効率	%	79.76 (高位発熱量)	カタログ値	変更なし
ε_{BL}	事業実施前ボイラ効率	%	85.50 (高位発熱量)	カタログ値	変更なし
$CF_{\text{fuel,BL}}$	灯油の単位発熱量あたりの 炭素排出係数	tC/GJ	0.01851	国内クレジット制度のデフォルト 値	変更なし

6 排出削減量の計算

6.1 事業実施後排出量

活動量	単位発熱量	排出係数	CO2 排出量
EM _{PJ}			0.0 (t-CO ₂)

6.2 ベースライン排出量

活動量	単位発熱量	排出係数	CO2 排出量
27.5 (t)	20.50 (GJ/t)	0.01851 (tC/GJ)	
7.0 (%)			
79.76 (%)			
85.50 (%)			
EM _{BL}			33.2 (t-CO ₂)

6.3 リークージ排出量

活動量	単位発熱量	排出係数	CO2 排出量
LE			0

6.4 温室効果ガス排出削減量

項目	記号	
ベースライン排出量 (7.2)	EM _{BL}	33.2
事業実施後排出量 (7.1)	EM _{PJ}	0.0
リークージ排出量 (7.3)	LE	0
温室効果ガス排出削減量	ER	33

7 省エネルギー量

本事業は、再生可能エネルギーを利用するプロジェクトのため、省エネルギー量は少ない。

8 再生可能エネルギー利用量

モニタリング期間 (2012年12月1日 ~ 2013年3月31日)			
	エネルギー使用量 (実績)	熱量換算 (GJ) (実績)	原油換算(kL) (実績)
単位			
バイオマス利用量	t	27.5 t	524 GJ 13.5 kL